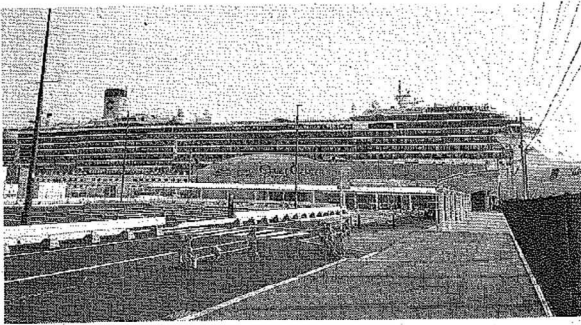


地域再生とまちづくり

—各都市が目指すものは—

観光客、最多を更新中

15年国勢調査（速報値）によると、福岡市の人口は約154万で神戸市を650人上回り、政令市の中で5番目の都市になった。日本全体の人口が減少する中、福岡市は今後もしばらくは人口増加が続くと見られている。



博多港に寄港するクルーズ船



福岡市は、従業者ベースでサービス産業の割合が9割を超えており、福岡へ訪れる人を増やすことが都市の活力を向上させる大きな力となる。

中国からのクルーズ船の寄港

福岡市・ウォーターフロント地区の再整備

福岡市の入込観光客数は、外国人観光客の増加や国際会議などMICE誘致の強化で1855万人（14年推計値）となり、3年連続で過去最高を更新。福岡空港、博多港から

急ピッチで拡大している。まず17年頃に、中央ふ頭に水深12mの岸壁を新設し、全長320m以上の大型船が着岸できるようにするのに続き、ふ頭と断トツの日本一（2位、長崎港131回）であり、16年は約400回と更に増加する見通しだ。それに対応して、博多港の受け入れ体制整備をも進められている。

福岡市は13年に「グローバルMICE戦略都市」に選定

<第2回>

数が急増し、15年の博多港からの入国者数が前年比11.9%増の約68万人となった。福岡市は、15年の外国クルーズ船の寄港回数が245回と断トツの日本一（2位、長崎港131回）であり、16年は約400回と更に増加する見通しだ。それに対応して、博多港の受け入れ体制整備をも進められている。

大型クルーズ船 受け入れ MICE誘致体制も強化

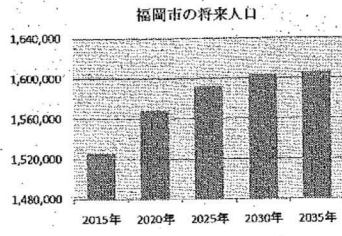
されており、MICEの誘致にも力を入れている。14年の国際会議開催件数は、全国2590件のうち福岡市は336件で、6年連続2位（1位は東京543件）である。

アジアに近い優位性

主な施設は収容人数1万5000人のマリンメッセ福岡と1万人の福岡国際センターで、両施設の年間稼働率は80%を超えてほぼ上限に達している。MICE需要に対応するため、マリンメッセ福岡の南側に第2期展示場（20年度開館予定）の建設を計画している。また、第2期展示場などの隣接地区ではVIP向けの宿泊施設や飲食・物販店舗のほか、コンサートホール機能を備えた施設の建設も計画されている。

福岡市は、地理的に東京よりもアジア各国主要都市やソウル・上海から近いという立地優位性がある。こうした利点を生かし、福岡市は天神・博多駅周辺などの都心部と並ぶ新たな拠点として、コンベンション施設が集積し、クルーズ船が寄港するなど海外から多くの人が訪れるウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）の整備を図り、国際競争力の高い、活力ある都市として更に発展していくことを目指している。

社、井澤康



都市	人口
横浜市	372万6167人
大阪市	269万8024人
名古屋市	229万6014人
札幌市	195万3784人
福岡市	153万8510人
神戸市	153万7860人
川崎市	147万5300人
京都市	147万4570人
さいたま市	126万4253人
広島市	119万4504人

※大崎市は2015年9月1日時点の住民基本台帳に基づく推計人口。他は15年10月現在の国勢調査速報値